

広島大学附属東雲小学校 卒業式

式 辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ここ東雲で、いま皆さんの今日の姿のように立派な成長を遂げ、小学校の全課程を修了されたことを、心より喜び合いたいと思います。皆さんが東雲小学校に入学した2020年は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大でこれまでに誰も経験したことのない色々な物事が世界中で起きた年でした。

皆さんが一年生の時の今年の漢字は三密の「密」、二年生の時は二回目の東京オリンピックの「金」、三年生の時はウクライナへの侵攻などによる戦争の「戦」でした。皆さんが四年生となった2023年の5月には、ここ広島市では初めてとなる先進国首脳会議・G7広島サミットが開催、五年生の2024年の12月には、日本原水爆被害者団体協議会・日本被団協にノーベル平和賞が授与されました。そして皆さんが六年生となった2025年は被爆から80年、ここの東雲小学校の創立150周年の年でした。この年に私は皆さんと出会い、同じ時間を過ごせたことを、とても幸せに誇りに感じています。

皆さんの六年生としての始業式、そこで初めて対面した時に、私からは「ユネスコ憲章」の話をしました。その際に、「ユネスコ憲章」の前文の「戦争は人の〇〇〇の中で生れるものであるから、人の〇〇〇の中に平和のとりでを築かなければならない」を紹介して、さて「〇〇〇」の三文字は何が入るでしょうかと問いかけました。

おそらくユネスコスクールでもある東雲小学校の皆さんであれば、この三文字の言葉はいつでもすぐに「あたま・からだ・こころ」の中のでてくると期待しています。平和についてなど、色々な物事を考えていく時に、「あたま」の中だけで考えていくだけでは十分ではありません。「あたま」で考えながら「からだ」もうまく使い、発信や表現や行動そして傾聴や対話を進めて行く中で、皆さんの「こころ」に何か感じる事ができているかどうか、それがとても大事です。

このように考える時、卒業生の皆さんは、だからここ東雲小学校では、他の学校とは異なる独自の行事や学習がこんなに盛りだくさんだったのかと気付いてくれることと思います。ユネスコ憲章の中での「人の〇〇〇の中に平和のとりでを築かなければならない」について、東雲小学校の卒業生の皆さんは「あたま・からだ・こころ」のどれか一つではなく、この全てを駆使して、今後の世界の中で「平和の砦」を築いていく大切な一人になってくれることを、この先も願い続けています。

おわりに保護者の皆様に申し上げます。ここまで本校の教育活動に格別のご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。第150回卒業生の皆さんの小学校の卒業を、心よりお祝い申し上げますとともに、ますますの成長を東雲の教職員一同、心よりお祈り申し上げます。

広島大学附属東雲小学校の第150回卒業生の皆さんの今後、そして未来に、幸多きことを祈念して、式辞といたします。

令和8年3月13日

広島大学附属東雲小学校長 永田 忠道